

# 三愛 view

発行所：三船病院相談室  
 創刊日：2003年8月15日  
 〒763-0073  
 香川県丸亀市柞原町366  
 Tel 0877-23-2341  
 Fax 0877-23-2344



## 「大規模事業計画を目前に控えて」

三船病院 院長 三船 和史

三船病院の時計台は昭和54年に本館(3階建て)および外来等ができるときにつくられたものです。東西南北の4面に時計があり、1面の面積は4畳半の広さで非常に大きな時計です。しばらくの期間は1日2回時報が鳴っていましたし、地域で農作業をしている人などが時刻を知るのに便利であると考えていました。その後、時計台は三船病院のシンボルとしての存在価値の方が大きくなっていきました。その時計台の屋根が今年の台風の風害で南面と東面が大きく壊れてしまいました。

これを修理するべきかどうか悩んでいました。と言いますのは、時計台のある5階建ての建物の取り壊しが数年後に予定されているからです。建物と一緒に時計台もなくなります。結局、あと数年しかありませんが時計台の屋根を修理することにしました。



さて、5階建ての建物ですが、昭和39年と41年の2回にわたってつくられたもので、築約50年になります。全フロアが病棟であり、時代の流れと共に病棟内構造をより近代化するための改修を繰り返してきました。その際に耐震工事もある程度していました。しかし、建物本体が古くなっていくので、

いつかは建て替えしなければいけないと思っていました。建て替え工事はおおごとになることがわかっていたので、9年ほど前からダウンサイジング(病棟規模の縮小)と共に不必要になった5階建ての建物の病棟を順次廃止あるいは休止していき、現在稼働している病棟は2階部分のみとなっています。これで大工事もやりやすくなってきたわけです。また、地震災害の多いわが国において、地震対策の一環として、この数年以内に古い建物の耐震対策強化が国の方針として打ち出されました。もはや三船病院の5階建て建物の建て替えは必至のものとなったわけです。

三船病院には5階建て建物以外にも同年代あるいはそれ以前に建てられた2階建て建物が残っています。その建物は病棟としては使われていないので、その部分をまず取り壊して、その跡地に3階建て建物を新築します。そこには1つの病棟とデイケアセンター、作業療法センター、外来歯科、検査室、心理カウンセリング室、訪問看護室、大小会議室などが入ります。三船病院は近隣民家と非常に近い位置にあるので、近隣に迷惑をかけないように建物の構造を工夫します。また、3階部分が病棟になり、しかも身体的に不自由な方が多く含まれるので、火災時の避難対策も構造的に工夫しています。この建物の完成は平成29年の夏頃と予定しています。



そして、いよいよ5階建ての建物が取り壊されることとなります。すべての病棟は別の場所に移動しているため、この跡地に病棟は必要ありません。これまで、三船病院の外来棟は待合のスペースが少なく、外来者にはご不便をおかけしてきました。ダウンサイジングを繰り返してきて現在の入院患者数はかなり減少しており、外来のウエイトが増してきているので、外来棟を立て替える必要に迫られています。そこで、5階建ての建物が取り壊された跡地に1階建ての外来棟をつくる計画を進めているところです。



今回の事業計画の中で、院内売店アゴラは一旦仮施設に移転し、その後に建て替えられることとなります。アゴラという名称はラテン語で“広場”を意味します。患者さんも職員も一般の方々も集まる憩いの場所という意味を込めて昭和54年に



作られました。新しい売店の建物はこれまで以上にその機能を持つことができるようにつくり替えたいと思っています。

最後に、時計台をどうするかという問題が浮上してきました。三船病院には5階建ての建物はなくなり、高くても3階建てまでになりますが、それでも、シンボルとしての時計台をなくさないで欲しいという関係者の声が多く、現在のところ復活させたいと思っています。

すべての工事が完了するのは平成31年春頃であり、この事業の完成によって三船病院の外来機能が非常に充実していくと考えています。



### 【三船病院の理念】

病院の愛、家族の愛、社会の愛（三愛）に包まれた  
患者様の医療を目指します。

### 【病院の基本方針】

1. 急性期精神医療から精神科リハビリテーションまで  
多様なニーズにお応えします。
2. 患者様とご家族に信頼される病院作りをします。
3. 患者様の権利と尊厳を尊重し、療養生活の質の向上に努めます。
4. ご家族と一緒に患者様の退院足進と地域生活支援を  
積極的に取り組みます。
5. 地域における社会資源を活用・開拓します。



## 「退院支援における作業療法の役割」

作業療法課 課長 江戸 晶子

今回は、「退院支援における作業療法の役割」について、現状と今後の展開という視点で少しまとめてみたいと思います。

まず、当院の退院支援の取り組みの歩みを簡単に振り返ってみると、平成16年に医療相談室内に設けられた地域生活支援室を中心として、医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士など専門職による地域生活支援委員会が発足、実務担当する多職種の情報共有を主として、組織的な退院支援が始まりました。特に平成19年、クリニカルパスを導入して行った退院支援、平成23年、精神科急性期治療病棟開設に伴って行った退院支援は、長期入院患者様の地域移行を実現し、病院のダウンサイジングにも貢献しました。また上記に加え、新たなロングステイを防ぐために、急性症状の治まった早期から退院後の生活を想定した関わりを行うことが重要で、現在精神科急性期治療病棟では日々積極的な取り組みが行われているところです。

それでは上記のような退院支援の中で、作業療法士はいったいどんな役割を果たしてきたのか…、そしてこれからどんな役割を担っていかねばならないのか…。

ここで、「精神科作業療法とは」というところに一度戻ってみたいと思います。精神科作業療法とは、精神科治療において生活に障害を持った方々を支援するリハビリテーションの一つです。作業療法士は日々の生活で行われる様々な作業活動を用いて、その人の健康的な部分に働きかけ、心とからだの回復を助け、自分らしい生活を再建していくための支援を行います。具体的には、仕事、日常生活、社会生活、遊びや余暇、創作活動などを用いて、混乱した状況から現実を取り戻していく過程を、時間、頻度、関わりや程度など、対象者の状態に応じて細やかに配慮しながら同伴する関わりです。現在、作業療法センター、各病棟レクグループで行っている集団での諸活動、また個別で行っている機能訓練を含めた運動、外出などの社会的活動、カラオケ、創作などの活動がこれに当たるわけです。しかし、本来退院支援はそれぞれを取り巻く環境に応じ個別に行われるものであり、当院の作業療法では、まだまだ対応できていないのが現状です。

つまり、今までの作業療法士の役割を端的にまとめるならば、日々の作業療法活動の中で知り得た対象者の健康的な側面や苦手なこと、どんなことが出来てどう援助するとやり易いのかなど、他職種が見落としがちな視点をも含めて捉えた情報を地域生活支援委員会、ケア会議、普段の業務の中で情報を提供することであったと思います。これは十分に役割を担っているとは言いがたく、より個別性のある取り組みが求められていると感じているところです。

最後に、個々により、病状や生活の障害のありよう、また回復の様子がさらに多様な精神科作業療法に於いては、

①受け皿がないために長期入院を余儀なくされている方々に対しては、その人たちが望む生活を獲得するための支援とその生活場面の確保。入院が長くなることによる二次的な障害を引き起こさないための支援を行うこと。

②高齢者の場合には、保護的な生活施設での支援が必要になると考えられる。生活の質という面に目を向け、本人の能力、施設の環境双方を評価し出来る調整を行うこと。

③急性期の状態や、それに近い状況を常時繰り返している方以外、地域社会の理解と適切な配慮があれば、退院は可能となると考えられる。どのような環境において、どのように対応すればよいかという具体的な評価と情報の提供を行い、対象者にも地域社会で共に暮らす周りの人たちのも、不要なストレスが起きないように支援を行うこと。

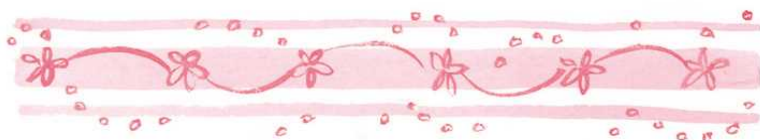
以上のような視点を念頭に、引き続いて行われる退院支援、地域移行に他職種との連携を深めつつ作業療法士の役割を着実に担っていくことが課題と考えています。



# 三船病院 委員会活動紹介

## 「医療事故調査制度について」

医療安全管理委員会 委員長 川田 浩



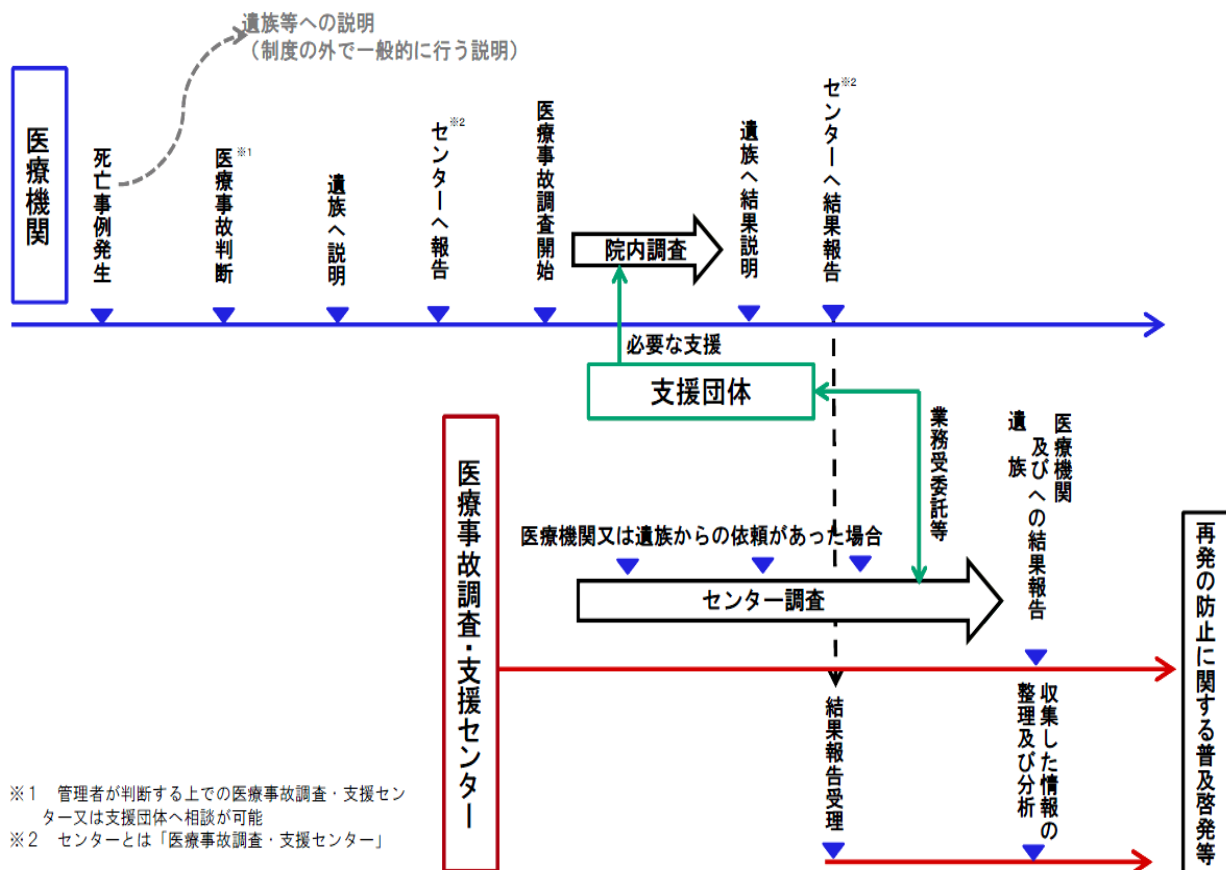
今回は、医療法の改訂に基づきH27年10月1日から施行予定の医療事故調査制度について簡単に説明させていただきます。対象となる事故は「医療に起因する、又は起因すると疑われる死亡であって、且つ、その死亡を予期されなかったもの」とされています。

もし対象となる医療事故が発生した場合、医療機関はご遺族に説明を行ってから、医療事故調査・支援センターに報告(届出)をします。その後速やかに院内調査を行いますが、その際医療機関は医療事故調査等支援団体に対し支援を求め、原則、外部の医療専門家の支援を受けながら調査を行います。医療機関はその調査結果をご遺族に説明し

医療事故調査・支援センター(民間の第三者機関)に報告します。医療事故調査・支援センターは事故の収集・分析や再発の防止に関する普及啓蒙等を行って医療の安全を確保していきます。

この制度は「学習を目的としたシステム」であり責任追及を目的とするものではなく懲罰を伴わないこと(非懲罰性)・患者、報告者、施設が特定されないこと(秘匿性)・報告システムが報告者や医療機関を処罰する権力を有するいずれの官庁からも独立していること(独立性)などが必要とされています。言うまでもなく、医療機関はこの制度を利用しないように、常日頃より医療安全管理を行って医療事故防止に努めなければなりません。

### 医療事故に係る調査の流れ





# 三愛会 トピックス



## ★第35回相談室セミナー

7月30日に第35回相談室セミナーを開催しました。講師に障害者就業・生活支援センターくばらの大西由美子氏をお招きして、「仕事について考えよう」というテーマで勉強会を行いました。就職するために必要な準備についての話や、会社から求められることなどを一緒に学びました。就職はしたいけど、実際にどのように仕事を探せばよいのかわからないという悩みが多く聞かれましたが、具体的に例を挙げた話があり、皆様それぞれに自分が頑張るべきことを見つけて帰られました。お辞儀や挨拶の練習も行いました。参加者の皆様も就職にむけて真剣な表情で参加されていました。



## ★三船病院夏祭り

8月8日(土)に三船病院夏祭りがありました。ゲストにはクワトロ・フィオーリの方々と龍神太鼓の皆様をお招きし、大盛り上がるのステージとなりました。患者・職員有志のカラオケとダンスも大成功し、みんなで踊る盆踊りも笑顔があふれ、とても楽しい夏の思い出の1つとなりました。恒例のバザーや花火も好評で、今年の夏祭りはとても賑やかなものとなりました。



## 三船病院医師からのメッセージ...



### 「お薬の少しこわい話」

医師 鴨居 鈴委子

当院では向精神薬以外にもたくさんの薬があります。診療の中で処方希望が多いのは痛み止めです。常備されるような身近な薬ですので、自己判断で使う人も少なくないと思います。今回はそんな薬の少し怖い話をしてみます。

ロキソニンやボルタレンなどの非ステロイド性抗炎症薬で胃潰瘍が起こることは比較的有名です。レルパックスなどのトリプタン製剤は片頭痛に効く薬ですが、使いすぎると逆に頭痛を誘発します。モーラステープによる光線過敏症は、貼付部に紫外線が当たると皮膚炎を起こしますし、剥がした後もしばらくは成分が残るため同様の症状が出る場合があります。最近、科を問わず処方が増えているリリカという薬については特に注意が必要です。これは神経性疼痛に効果がある薬で、他の薬が無効だった慢性的な痛みが和らぐ可能性があります。依存や離脱症状が問題になります。また副作用としては、眠気やふらつき、眼障害など重篤な症状が出る可能性があります。

このように、便利な痛み止めにも意外と怖い副作用があります。我々処方する側はもちろんですが、みんなで薬の適切な使用を心がけましょう。



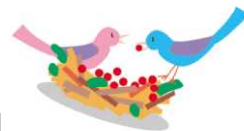
## 【介護老人保健施設 福寿荘】

### 「事務の仕事」

事務係 菊地 麻由美

初めて事務という仕事に携わり1年半が過ぎました。先輩の方々、利用者の方々、利用者のご家族の方々を支えられ仕事をさせて頂けたことに感謝しています。介護施設での事務は3年毎に法改正があったり、日々の様々な業務に戸惑うこともあります。その都度、先輩の方々の親切なご指導を頂く中に徐々に知識が増えていることを実感しています。事務の仕事と共に受付でもありますので、利用者の方々や利用者のご家族の方々とお話をさせて頂くことがよくあります。その会話の中から困っていることや今、必要としていることに気づき、お役にたてる情報を提供できるよう知識を広げておくこと、また情報として看護や介護など他の職員の方の役にも立てるように耳を傾けることも大切な仕事のひとつだと感じています。日々の業務に追われることもありますが、福寿荘にいらっしゃる方を笑顔でお迎えできるように事務と受付の業務の両立に日々、精進していきたいと思っております。

## 【三愛会コミュニティケアセンター】



### 「地域活動支援センターはなぞのの取り組みについて」

地域支援センターはなぞの 精神保健福祉士 高尾 彩

地域活動支援センターはなぞのは、地域で暮らす精神障がいのある方に向けて、活動の場やいこいの場、生活の中で困っていることの相談の場などを提供しています。午前8時～午後5時15分まで開所しており(祝日のみ閉所)、141名の方が利用登録をされています。それぞれの生活に合わせて自由にはなぞのを利用していただく中で、活動の場や学習の機会の提供としてさまざまな活動を実施しています。

今回はその1つ、機関誌「はなぞの通信」の発行事業をご紹介します。「はなぞの通信」は、はなぞのの情報をメンバーや関係機関へ発信し、情報提供することを目的に毎月1回、発行しています。最も力を入れているのは1面の取材記事作成です。編集委員としてメンバーが固定して携わり、毎月、取材先や内容について検討する編集会議を開いたり県内の福祉事業所などを訪問する取材活動を行っています。地域で暮らす障がいのある方が実際に役に立てられる情報を取材し、お知らせすることを大切にしています。メンバーが編集委員の役割を担うことで当事者からの視点が加わり、メンバーの実情や必要に沿った情報を提供することが出来ているのではないかと思います。

機関誌発行事業だけにかかわらず、はなぞのではメンバーの皆様と一緒に、一人ひとりの特技や持ち味が発揮できるよう、広い視点を持って施設運営するよう心がけています。

#### 《三船病院からのお知らせ》

##### 【行事予定】

##### ○三船病院クリスマス会



日程は未定ですが、今年も開催を予定しています。ゲスト出演やバザー、ゲームも行う予定ですので、お楽しみに。

**HAPPY CHRISTMAS**

#### 《編集後記》

さわやかな秋晴れの続く今日此頃、みなさまいかがお過ごしでしょうか。1面でも触れましたが、当院では大規模な立て替え工事を予定しております。病院のシンボルであります時計台とも、復活までの少しの間お別れとなってしまいます。今後は大きな音や振動などで、騒がしくなりご迷惑をおかけしてしまいますが、どうぞよろしくお願い致します。外来機能の充実、院内売店アゴラのリニューアルなど、新しい三船病院の完成をお楽しみにお待ち下さい。

(三船病院相談室 PSW)